

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善							
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）						成果の方向性	H29年度 予算額 （千円）	H30年度 予算額 （千円）	事業費の増減	人件費（目安）			H28年度 事業 評価	H30年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	H28年度 局施策 評価	H30年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）
					指標名等	現状値 （基準値）	H28年度	H29年度	H30年度	中期 目標					金額 （千円）	職位	人数				
II-1-(2)-① 医療・救急体制の充実	1	応急手当の普及啓発活動の推進	救急課	突然の病気や怪我等により傷病者が発生した場合に、そばにいる市民が適切な応急手当を行うことで、救命効果は向上する。また、AEDの使用が一般的に認められたことで、さらに市民の応急手当による救命効果の向上が期待されている。そこで、AEDの取扱いも含め、市民に対する応急手当の普及啓発活動を推進する。	応急手当講習の受講者数	43,054人 (H28年度)	目標 40,000人	40,000人	40,000人	応急手当講習の受講者数の増加	継続	2,075	2,278	増額	20,370	課長 0.13人	順調	救急車の適正利用に係る広報用資料の作成により、救急需要対策を強化する。	順調	救急車の適正利用に係る広報資料の作成により、救急需要対策を強化していくとともに、救急救命士の計画的な養成を行う。	
	2	救急体制の充実強化	救急課	救急救命士の処置が拡大されたことに伴う追加講習を受講させるとともに、救急体制の充実強化のため、救急救命士の資格取得養成を計画的に増強し、安全確実な救命処置に取り組む。	高度かつ安全確実な救命処置の実施	—	目標 —	—	—	高度かつ安全確実な救命処置の実施	継続	17,778	18,259	維持	20,370	課長 0.13人					順調
							実績 43,054人								係長 0.50人						
							達成率 107.6%									職員 1.85人					

施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の方向性	H29年度 予算額 （千円）	H30年度 予算額 （千円）	事業費の増減	人件費（目安）			H28年度 事業評価	H30年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	H28年度 局施策評価	H30年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	
					指標名等	現状値 （基準値）	H28年度	H29年度	H30年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数
II-1-(4)-③ 総合的な消防防災体制の構築	3	自主防災活動の推進	消防団・市民防災課	地域防災力の向上を目的に自主防災組織である「市民防災会」の育成指導を行う。	1933全小学校区における市民防災推進行事への年1回以上の参加	—	目標 193 校区・回	193 校区・回	193 校区・回	全小学校区193校区・回（毎年度）	継続	6,596	6,596	維持	5,800	課長 0.20 人	順調	地域防災力の向上を目的に自主防災組織である「市民防災会」の育成指導を行い、市民の防火・防災思想の普及と高揚を図る。	自主防災活動の推進については、自主防災組織である「市民防災会」の育成指導を行い、地域防災力の向上を図る。 住宅防火対策の推進については高齢者世帯への設置促進及び適切な維持管理方法について広報活動を強化する。 また、地域防災の拠点となる消防施設の整備及び耐震化を計画的に推進していくとともに、消防団の整備改善を継続実施し、女性や若者が魅力を感じる消防団づくりを推進し、入団促進と機能強化を図る。		
	4	住宅防火対策の推進	予防課	高齢者・障害者等の訪問活動を行い、防火・防災啓発の普及を図るとともに、火災及び焼死事故等の防止に努める。	住宅用火災警報器の設置率	—	目標 81.2 %	81.7 %	全国の平均設置率と同程度	住宅用火災警報器の設置率向上	継続	1,791	1,150	減額	24,700	課長 0.80 人				順調	近年の焼死事故の状況を踏まえ、高齢者等を含む世帯に対して住宅用火災警報器の設置促進を強化する。 住宅用火災警報器の設置義務化から10年が経過し、今後、警報器の電池切れの増加が見込まれることから、電池が切れた際における適切な維持管理について広報を強化する。併せて「無線式運動型」の普及に向けた啓発を行う。
	5	消防団の充実強化	消防団・市民防災課	老朽化した消防団施設を計画的に整備するとともに、消防団の装備を改善し、消防団の充実強化を図る。	消防団施設整備による地域防災力の向上	—	目標 1 施設	1 施設	1 施設	地域防災力の向上	継続	109,130	95,197	減額	5,470	課長 0.03 人					
			消防団員の充足率	H29.4.1現在の充足率95.9%	目標 94.5 %	94.5 %	95.5 %	96.0% (H31年度)	職員 0.55 人												
6	消防署・分署の適正配置・整備	人事課	人口動態及び都市構造の変化、災害の大規模化など、消防を取り巻く環境の変化に対応した消防力（消防署所の開設や消防隊の配置）を整備。また、市民サービスの公平性の観点から、消防署所の適正配置や効率・効果的な部隊運用を推進。	八幡東区の消防機能の強化	—	目標 旧庁舎・解体工事	旧庁舎・解体工事完了			平成28年開署	継続	649,738	1,037,094	増額	9,470	課長 0.03 人	順調	門司消防署や八幡西消防署等の整備事業を行い、本市のさらなる消防力の強化を図っていく。 平成30年度においても、スケジュールに沿った事業管理を行い、順調に進めている。			
				門司区の消防機能の強化	—	目標 新庁舎・実施設計	建築工事	建築工事竣工	平成31年開署	係長 0.50 人											
				八幡西区の消防機能の強化	—	目標 新庁舎・基本設計	新庁舎・実施設計	建築工事	平成32年開署	職員 0.55 人											

		【Plan】 計画 / 【Do】 実施										【Check】 評価 / 【Action】 改善																					
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管理課名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の方向性	H29年度 予算額 （千円）	H30年度 予算額 （千円）	事業費の増減	人件費（目安）			H28年度 事業 評価	H30年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）	H28年度 局施策 評価	H30年度に向けて強化・見直した内容 （課題に対する改善方法等）													
					指標名等	現状値 （基準値）	H28年度	H29年度	H30年度					中期 目標	金額 （千円）	職位					人数												
7	消防団施設の耐震化	総務課、消防団・市民防災課	災害発生時において防災拠点となる消防団施設の耐震化を促進するため、耐震診断の結果に基づき、耐震補強計画及び耐震補強工事を計画的に実施する。	消防署所施設耐震化	目標	2	施設			建設予定除き耐震補強工事はH28年度で完了	継続	8,900	9,300	維持	11,285	課長	0.09	人	順調	消防署所の耐震化については建て替え予定施設を除き平成28年度に事業完了。消防団施設は、未耐震施設のうち、建替え候補の施設を除いた施設について、耐震補強工事により平成35年度までに耐震化を図る。													
				実施	2	施設				係長											1.10	人											
				達成率	100.0	%																											
消防団施設耐震化	目標	実施設計7施設	工事3施設計画2施設	工事2施設設計3施設	H35年度中に消防団施設の補強工事完了																												
実施	69	未耐震：26	H29.4現在	6施設																													
達成率	85.7	%																															
8	緊急通報システム	予防課	高齢者や重度身体障害者がいる世帯の火災やガス漏れ、救急要請などの緊急通報を消防指令センターで直接受信し対応することにより、火災・救急による被害の低減を図るとともに、高齢者等が住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援する。	高齢者等の安全・安心な生活の実現	目標	-	-	-		高齢者安全・安心な生活の実現	縮小	50,134	33,000	その他	9,050	課長	0.20	人	順調	事業の充実・強化を図り、平成29年11月から新たに「あんしん通報システム」の稼働を開始したところであり、利用者の「あんしん通報システム」への円滑な移行を推進する。													
				実績	-	-	-			係長											0.30	人											
				達成率	-	-	-																										
				緊急通報システムの稼働数・受信数・出動数	目標	-	-	-	稼働数3,546台 受信数2,749件 出動数1,069件 (H28年度)													緊急通報システムの稼働数の向上											
				実績	稼働数3,546台 受信数2,749件 出動数1,069件																												
				達成率	-	-	-																										
9	<新>あんしん通報システム	予防課	高齢社会の更なる進展等を踏まえ、現行の「緊急通報システム」のサービス内容の充実を図り新たに「あんしん通報システム」として実施する。看護師等による通年24時間受付可能な相談体制の充実や、緊急時の対応強化策として民間の整備員が駆け付けると、高齢者等が住み慣れた家庭で、より安心して生活できるよう支援する。	高齢者等の安全・安心な生活の実現	目標			-	-	高齢者安全・安心な生活の実現	拡大	12,193	42,252	その他	9,050	課長	0.20	人	-	現行「緊急通報システム」の課題であった、相談体制の充実や、玄関の施錠等で利用者への接触に時間を要していた部分について、それぞれサービス内容の充実を図り、利用促進に努める。													
				実績																		係長	0.30	人									
				達成率																													
				目標																													
				実績																													
				達成率																													
10	いきいき安心訪問	消防団・市民防災課	介護職員初任者研修修了者を中心とした女性消防団員が、一人暮らし高齢者世帯等を訪問し、防火・防災指導や簡単な身の回りのお世話を行うとともに、福祉に関する相談を関係機関につなぐなど、安心感の向上を図る。	火災や重大事故発生の未然防止	目標	-	-	-		火災や重大事故発生の未然防止	継続	8,428	7,339	減額	990	課長	0.01	人	順調	女性消防団員の入団及び介護職員初任者研修の受講を促進し、事業の充実を図る。													
				実績	-	-	-			係長											0.05	人											
				達成率	-	-	-																										
				目標	-	-	-																										
				実績	-	-	-																										
				達成率	-	-	-																										

【Plan】 計画 / 【Do】 実施														【Check】 評価 / 【Action】 改善											
施策番号・施策名	No.	基本計画の施策を構成する主な事業・取組	主要事業所管理名	事業・取組概要	事業評価の成果指標（目標・実績）					成果の方向性	H29年度 予算額 (千円)	H30年度 予算額 (千円)	事業費の増減	人件費（目安）			H28年度 事業評価	H30年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)	H28年度 局施策評価	H30年度に向けて強化・見直した内容 (課題に対する改善方法等)					
					指標名等	現状値 (基準値)	H28年度	H29年度	H30年度					中期 目標	金額 (千円)	職位					人数				
II-3-(4)-② 国際協力・交流の推進	11	【施策評価のみ】アジアの消防リーダーとしての国際協力	訓練研修センター	【施策の内容】アジア地域の消防関係者を受け入れ、北九州消防局の消防・防災に関する技術移転を行う。 【施策の指標】アジア地域からの研修員受け入れ継続	アジア地域からの研修員受け入れ継続	目標 受入	実績 2名	達成率 —	受入	受入	受入	アジア地域からの研修員受け入れ継続	継続	—	—	—	—	課長 —人	係長 —人	職員 —人	—	順調	引き続き、国際協力機構（JICA）と連携し、更にアジア地域の研修員が増加するよう呼び掛け等を行う。		
III-2-(2)-② 市民の文化芸術活動の促進	12	消防音楽隊による文化活動	人事課	市主催の式典や消防の各種行事等に出演し、市民参加向上の役割を担うとともに、音楽隊の演奏やカラーガード隊の演技を通じて、市のPR活動や防火・防災啓発活動を実施する。 併せて、児童の健全な育成等に寄与することを目的に、教育機関と連携し、積極的に児童教育に貢献する。	音楽を通じた安全安心の提供及び防火・防災普及啓発 消防音楽隊出演回数	1回開催（平成28年度）	目標 2回 実績 1回 達成率 50%	2回開催（毎年度）	2回開催（毎年度）	2回	2回	2回	2回開催（毎年度）	継続	7,524	6,731	減額	4,615	課長 0.01人	係長 0.15人	職員 0.40人	順調	消防音楽隊の活動を幅広く市民へ周知できるよう、音楽隊の出演時に、ホームページの閲覧を促す。 またSNSに音楽隊の活動を掲載し、ホームページにリンクさせるなど広報活動を強化する。	順調	引き続きホームページやSNSを活用した、広報活動を継続する。
VII-1-(3)-② 上下水道、消防、交通などの分野における国際協力の推進	13	【施策評価のみ】アジアの消防リーダーとしての国際協力	訓練研修センター	【施策の内容】アジア地域の消防関係者を受け入れ、北九州消防局の消防・防災に関する技術移転を行う。 【施策の指標】アジア地域からの研修員受け入れ継続	アジア地域からの研修員受け入れ継続	目標 受入	実績 2名	達成率 —	受入	受入	受入	アジア地域からの研修員受け入れ継続	継続	—	—	—	—	課長 —人	係長 —人	職員 —人	—	順調	引き続き、国際協力機構（JICA）と連携し、更にアジア地域の研修員が増加するよう呼び掛け等を行う。		